様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　４ 年　 ５ 月 ２６ 日現在

機関番号：１２６０１
研究種目：基盤研究(B)（一般）
研究期間：2018～2021
課題番号：１８Ｈ００６１２

研究課題名（和文）日本宗教研究の新展開－ローカリティーへのグローバルなアプローチ

研究課題名（英文）A New Turn of the Study on Japanese Religion: Approach to Locality with Global Perspective

研究代表者
西村　明（Nishimura, Akira）

東京大学・大学院人文社会系研究科（文学部）・准教授

研究者番号：００３８１１４５

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　13,200,000円

研究成果の概要（和文）：出自地域の宗教史についての研究において、インフォーマントとのラポールの取りやすさに加え、研究者自身の研究歴との比較の視点が見出された。出身地域の宗教状況から醸成される関心と、そうした比較の視点とのインタラクションが確認された。地方学会の動向については、それぞれの地域的宗教性の特色に配慮した研究蓄積が見られた。宗教学・宗教史的関心を維持する地域的プラットフォームとして地方学会の意義が確認された。

研究成果の学術的意義や社会的意義
従来視野に入れられていなかった研究者個人の宗教的環境の歴史と現状に着眼し、それぞれの特徴とスケールメリットを生かした宗教研究の可能性を模索しようとする点が学術的意義と言え、さらにそれを教育面にも応用しようとする点で社会的意義も有する。従来では、個人史的な問題として処理されていたローカリティの問題に対して、組織的・体系的なアプローチの可能性を示したことで、今後の学界の活性化にも資するものとなるだろう。

研究成果の概要（英文）：A comparative perspective with the researcher's research history and the ease of rapport with informants were found in researching the religious history of the region of origin. The interaction between the interest fostered by the religious situation in the home region and a comparative perspective was confirmed. Regarding trends in local academic societies, research accumulation that considers the characteristics of regional religiosity was observed. The significance of local societies as regional platforms for maintaining interest in religious studies and religious history was confirmed.

研究分野：宗教学

キーワード：ローカリティ　地方学会　個人史

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

１．研究開始当初の背景

研究開始当初、本研究の中心的な問いとして掲げたのは、グローバル状況下において「日本宗教」を捉え返すためには、従来十分に検討の俎上に乗せられていないローカリティーを考慮に入れる必要があるのではないかという点にあった。ここでいうローカリティーとは、特定の宗教現象が成立する地域的・地理的特性であるとともに、ある宗教現象を選択的に着眼する研究者個人の信仰的・イデオロギー的背景をも含意した広い意味での局所性のことである。

この問いは近年における２つの学術的動向を直接的な背景として踏まえたものである。

(A)「国際日本学」を謳う学部・研究科・研究所・研究会等の創設が続いている。東京大学でも東洋文化研究所を中心に国際総合日本学ネットワークの構築が進められている。これは、帝国の学知やポスト・コロニアル研究、あるいはグローバル・ヒストリーという国内的・国際的な研究動向に棹差すものと言える。

(B)他方、宗教学分野では、「宗教」概念の批判的検討と、「宗教」／「世俗」の二分法の揺らぎを踏まえた、ポスト世俗的な状況を捉える研究動向が見られた。これは、近代の宗教学知の構築過程についての反省的研究であると言える。

これら２つの動向を踏まえた研究により、近代における諸国間の交流史を押さえた日本宗教の捉え直しや、ますます捉え難くなっている現代社会における「宗教」の位相を把握するための方向性が見出されつつある。ただし、いずれの研究動向もナショナルレベル以上の枠組みが問題となっており、より局所的な特徴は、現状では些細で非典型的な偏差、あるいは特殊な一事例として処理されてしまっているのではないかという疑問があった。

こうした傾向が生じたのは、１つには宗教学にとどまらず近代的学問の編成が、東京を始めとする大都市を中心として行われ、同時に学問的態度として研究者個人の地域的背景や宗教的背景を捨象した客観的・中立的姿勢が求められたためであろう。研究者自身の宗教的背景や出身地域的背景、さらには研究者の活動拠点とする大学が立地している地域的特性などが彼・彼女の学問の傾向に及ぼす影響については、学説史的人物研究の主題とはなっても、同時代的な研究の評価の枠外（楽屋裏）に置かれてきた。さらには、九学会連合編『地域文化の均質化に関する総合的研究』(1987)のように、後期近代的な情報化や移動性の高まりによって、ローカリティーは均質化の波に逆らえないという認識が持たれてきた。

しかし、府県（藩）単位の廃仏毀釈や神社整理といった宗教政策の実行度合いや、キリスト教・新宗教の伝道過程・分布といった各地域の歴史的特殊性、さらには東日本大震災後の東北地方や外国人労働者の集住地域など現在進行形での地域的特徴を持つ宗教現象の展開を踏まえた場合、ナショナルな枠組みに還元する「日本」宗教理解にとどまっていては事態を適切にとらえられない。言い換えれば、移民や外国人の来訪、経済的・文化的交流が活発化している現状や大規模災害等への反応とその後の復興過程などにおいて、各地域の宗教的背景の違いがそこに及ぼす影響の度合いを測る参照軸を欠いていた。

また、各地域において学問と高等教育の拠点となっている各大学においては、地方学会という形で研究者のネットワークと情報交換・問題意識の共有が図られ、それらの学問共同体の中で特色ある研究者の再生産が行われている。しかし、全国レベルの交流では研究のアプローチや研究対象などへの関心を越えて積極的に学問の方法論としてそうした地域性が議論されることは稀であった。

他にも、欧米から日本研究を志す若手研究者のなかには、外国語指導助手（ALT）などの形で地方社会に一定期間滞在した経験を持つ者が多いという事実にも注意しておくべきだろう。彼ら・彼女らの中には、その経験や人的ネットワークをリソースとして研究に生かすケースも多く見られるが、そうした点もこれまでは等閑視されてきている。

そこで、ローカルとグローバルな状況のダイレクトな結びつきをとらえるための研究・教育の枠組みを積極的に構築するための基礎作業が必要である。本研究のこうした問題意識は、いわば「地域論的転回」の可能性を問うということにあった。

２．研究の目的

本研究の目的は、このようなマクロな研究動向のなかで十分問われることのなかった問いとしてローカリティーに注目し、それが研究にもたらす可能性について批判的に検討した上で、グローバルな研究動向へとより適切な形で再接続する可能性を模索するところにあった。より具体的には、日本各地のローカリティーをベースとした研究動向を把握・整理した上で、有機的な連携を図り、海外の日本研究者も含めた、研究・教育ネットワークのプラットフォーム構築を目指すユニークな研究である。

ポスト・コロニアル的研究視座がヨーロッパの近代的学知の特殊主義を照射したように、ローカリティーへの着眼によって「日本宗教」としてこれまで表象されてきたものの脱構築を試みようとした。その際、海外の研究者や海外他地域を研究する国内の研究者によるグローバルな視座を参照しながら、より動態的な理解を目指すところに独自性を認識していた。

同時に宗教学の全国的動向においては、民俗学や歴史学、地理学などとは異なり、宗教現象の主題に沿った立論が先行して、各地域の宗教史や同時代的宗教現象に対するまとまった関心を共有できなかったという事情がある。戦後４０年間実施された九学会連合調査はその可能性を秘めていたものの、その後の継続性や発展性はあまり自覚的には試みられなかった。

しかしながら、地方在住の宗教研究者による当該地方に関する研究や、印度学宗教学会（東北）、北陸宗教文化学会（北陸）、西日本宗教学会（九州）や京都を中心とした宗教哲学会のように、その地域の研究者ネットワークとしての地方学会が組織され、それぞれに特色ある活動を展開してきている。他方では、駒澤宗教学研究会や大正大学宗教学会などのように、宗門系大学をベースとした学会組織や活動も存在する。ただし、これらの個別の活動に焦点を当てた研究動向の把握や参照は十分ではない。

これまで視野に入れられていなかったこうした活動の歴史と現状に着眼し、それらとの連携を通して、それぞれの特徴とスケールメリットを生かした宗教研究の可能性を模索しようとする点、さらにそれを教育面にも応用しようとする点でも、従来の研究にはない独創性を有していると言える。従来であれば、個人的努力に依存していた部分に組織的な対応への道を開くことを通して、学界全体の活性化にも資するものとなるだろうということを目的とした。

３．研究の方法

本研究は、上記の目的を達成するために、I）～V）について明らかにしつつ、パイロット的ローカリティー調査を実施することとした。

I）研究者（国内研究・海外研究）の出身地域の宗教史や宗教的背景が研究視座に及ぼす影響についての特徴把握

II）地方学会（界）の研究動向把握、特にその地域で継続的に研究されている研究主題などへの注目

III）地方大学勤務の宗教学者による当該地域の宗教史への関心、学部生・大学院生の研究指導の状況など

IV）外国人日本研究者の研究テーマと研究対象（地方・教団）の相関性の把握、研究対象および学会への関与の在り方

V）日本在住外国人への地域的対応の差異について

パイロット的ローカリティー調査は、研究代表者の出身地域である長崎で、地元の研究者との連携も図りながら、研究協力者の大学院生とともに期間中３年間継続して実施するとした。

４．研究成果

2020 年春以降の新型コロナウィルス感染症流行拡大を受け、当初予定していた通りの計画で推進することが極めて困難となり、再三にわたって計画を変更せざるをえなくなったが、本研究に明らかになったことは、以下の通りである。

１）出自地域の宗教史についての研究と外国人研究者による国内調査の関連性

出自地域（自身あるいは前世代親族の出身地）に関する宗教人類学的調査の事例から、親類縁者を窓口としたインフォーマントとのラポールの取りやすさが確認された。それは、外国人研究者による国内調査に見られるような ALT 等の交流プログラムから得られた地域との関係性や指導教員や先輩研究者による既存の関係性を窓口とした調査地への関わり方とある種の親和性がある。ただし、出自地域の宗教史への関心は、そうした調査地への生得的なつながりによってだけなされるのではなく、すでに海外他地域で実施してきた研究テーマとの比較の視点を伴って着手されているという点に特色が認められた。そうした性格をここでは「U ターン型調査」と呼んでおきたい。

そのことは、研究代表者自身の（研究）来歴とパイロット的ローカリティー調査を通じて、得られた知見とも接続可能な論点である。研究代表者である西村は、出身地域でありかつ大学教員としての初任地である九州を調査フィールドの中心に据えて活動してきたが、それは単に地の利という観点ばかりではなく、個人史的には、当該地域の既存の問題群（普賢岳災害、長崎原爆被害等々）が研究動機に関わるものとして存在していた。加えて、パイロット的ローカリティー調査として実施した島原半島における調査から、中世の山岳信仰や、近世期のキリシタン信仰とその後の禁教等が、相互に緊張関係をはらみつつ地域の宗教史に折り重なり、現在の住民生活もそうした宗教史的諸要素と慣習的に関わりながら現代の社会的文脈の中で、地域的な文化資源として新たな関わりを模索するような動態的な展開が見出された。このことから翻ってみると、個人的な宗教学宗教史学への関心そのものが、こうした出身地域の宗教史的多層性を背景として醸成されてきたことも後付けられた形となった。ただし、そうした知見は出身地域に対して、宗教学的な他者化のフィルターを通してこそ得られたものであり、「U ターン」だけでなく、常に他者化の契機を駆動させる「0 ターン的調査」を方法論化することの必要性が確認された。

２）地方学会の歴史と現状とについて

地方学会の歴史と現状についての研究集会（西日本宗教学会および北海道宗教学研究会の歴史と現状について）、他地域（タイおよびインドにおける研究動向）におけるローカリティーに注目した宗教研究についての研究会、および GIS（地理情報システム）を活用した全国の宗教関連情報のマッピングについての研究会の実施によって以下のようなことが明らかとなった。地方学会に関しては、中央都市部からの距離や情報格差という地理的な制約を越えて普遍性を目指した努力が見られる一方で、それぞれの地域的宗教性の特色に配慮した研究蓄積が見られた。

後者に関して、在野における郷土史・地域史や民俗学的関心の中で、必ずしも宗教および諸宗教への自覚的・継続的な関心が全国各地で認められるわけではなく、そうしたなかで宗教学・宗教史的関心を維持する地域的プラットフォームとして地方学会の意義が確認できた。しかし、地方の旧帝国大学を中心とした各大学の学問分野の編成のあり方に応じて、地方学会のあり方もヴァリエーションが認められる。今回の調査からは、そうした点の具体的な特徴把握にまでは及んでいないが、その解明は今後の宗教学的研究の方向性を考える上でも示唆を与えるものとなりうる。

上記の点は、海外他地域のローカリティーと宗教学・宗教研究の現状とも比較可能である。例えばタイにおける宗教学の学問的・社会的ポジションは、当該地域の宗教史や諸宗教の現状を如実に反映したものとなっている。したがって、国内のローカリティーを見る上で全国的傾向ばかりではなく、各地域の前近代的な宗教状況（例えば近世期の藩政と信仰生活との関係性など）を重ねて見ていくことの必要性や、各大学において宗教学が講座や教員配置上置かれていない地域で、どのような形で宗教に対する研究アプローチが見られるかについても留意する必要性がある。

宗教関連情報のマッピングがもたらす利点や留意点についても研究集会で知見が得られ、地域出版社の状況把握と宗教研究の関わりについても当初検討課題として掲げたが、これらについては他のサブプロジェクトの推進を優先したため、本研究期間中には十分な成果が得られなかった。今後の継続的な課題としたい。

当初の計画に加えて、パイロット調査や期間中の成果発表での議論を通じて見出された課題についても付言しておきたい。それは、ローカリティーを捉える範囲設定の困難についてである。当初の予想では旧藩域への注目などによって、ある程度明確な輪郭をもったローカリティーの範囲を設定して記述することが可能であると想定していたが、近代以降の展開においても市町村合併などの行政区域の再編成などによって、自治体史として地域史を記述・編集する主体の変更や住民アイデンティティの競合など複雑な様相が確認された。そのことは、さらに現在進行形で展開されるグローバル化の影響で、さらに複雑な様相を見せるに至っている。「日本宗教」や各宗教伝統への着眼だけでは見過ごされる観点であり、こうした様相をどのように記述に盛り込むことが可能であるのかを精緻化することが求められる。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計17件（うち査読付論文　5件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　9件）

１．著者名 西村　明	４．巻 36
２．論文標題 ローカルな信念世界への接近―宗像巌の水俣論とフィールドワーク	５．発行年 2019年
３．雑誌名 東京大学宗教学年報	６．最初と最後の頁 1-15
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.15083/00078530	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 NISHIMURA, Akira	４．巻 66(2-3)
２．論文標題 The Commemoration of the War Dead in Modern Japan	５．発行年 2019年
３．雑誌名 Numen	６．最初と最後の頁 139-162
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1163/15685276-12341536	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 池澤　優	４．巻 25
２．論文標題 死生学再考―フランクルとベッカーを軸にして	５．発行年 2020年
３．雑誌名 死生学･応用倫理研究	６．最初と最後の頁 9-40
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.15083/00079243	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 池澤　優	４．巻 なし
２．論文標題 井筒俊彦は宋代儒学のテキストをどのように読んだのか	５．発行年 2020年
３．雑誌名 澤井義次編『井筒・東洋哲学の展開に関する比較宗教学的検討』（平成29年度 ～令和元年度科学研究費助成事業・基盤研究(B)研究活動報告書、課題番号17H02278）	６．最初と最後の頁 191-206
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 IKEZAWA, Masaru	4．巻 66(2-3)
2．論文標題 he Development of Thanatology in Japan and its Position in East Asia, with a Focus on Thanatology’s Relationship to Religion	5．発行年 2019年
3．雑誌名 Numen	6．最初と最後の頁 114-138
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1163/15685276-12341535	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 伊達　聖伸	4．巻 24
2．論文標題 宗教から言語へ――1960年代ケベックの世俗的ナショナリズムとイタリア人コミュニティ	5．発行年 2020年
3．雑誌名 Odysseus	6．最初と最後の頁 107-125
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 矢野秀武	4．巻 38
2．論文標題 現代タイにおける代表的な宗教研究者と若手・新進気鋭の宗教研究者	5．発行年 2020年
3．雑誌名 駒澤大学　文化	6．最初と最後の頁 (1)194-(57)138
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 西村明	4．巻 2
2．論文標題 旧戦地に残されたもの－特集のねらいと補助線	5．発行年 2018年
3．雑誌名 戦争社会学研究	6．最初と最後の頁 156-160
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 池澤優	4．巻 24
2．論文標題 国際シンポジウム「東アジアの死生学―超高齢化と死にゆくこと」趣旨説明	5．発行年 2018年
3．雑誌名 死生学・応用倫理研究	6．最初と最後の頁 10-16
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 池澤優	4．巻 180
2．論文標題 中国文化における生命倫理	5．発行年 2018年
3．雑誌名 東洋学術研究	6．最初と最後の頁 88-116
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 藤原聖子	4．巻 1139
2．論文標題 公共宗教論を規定していたもの ―「法律―権利問題化」と「経済―市場原理化」に翻弄される宗教と宗教言説―	5．発行年 2018年
3．雑誌名 思想	6．最初と最後の頁 82-100
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 矢野秀武	4．巻 37
2．論文標題 世俗性の弱いタイ社会において、宗教研究はいかなる形でなされているのか	5．発行年 2019年
3．雑誌名 駒澤大学文化	6．最初と最後の頁 85-110
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 YANO, Hidetake	4．巻 12(1)
2．論文標題 Religious Activities of Administrative Agencies and the Relation between Religion and the State in Modern Thailand	5．発行年 2019年
3．雑誌名 Journal of Community Development Research (Humanities and Social Science)	6．最初と最後の頁 71-78
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 伊達聖伸	4．巻 10
2．論文標題 論争のなかの「倫理・宗教文化」教育――近年の議論の動向と公共空間における「宗教」の位置	5．発行年 2018年
3．雑誌名 ケベック研究	6．最初と最後の頁 19-32
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 伊達聖伸	4．巻 1134
2．論文標題 ケベックのヴェール論争――争点の移動と対決の構図	5．発行年 2018年
3．雑誌名 思想	6．最初と最後の頁 38-58
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 DATE Kiyonobu	4．巻 53
2．論文標題 Des mythes nationaux du Japon contemporain : Entre le besoin de demythification et de deconstruction	5．発行年 2019年
3．雑誌名 Bulletin of the Faculty of Foreign Studies, Sophia University	6．最初と最後の頁 157-179
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 伊達聖伸	４．巻 38
２．論文標題 現代ケベックにおける「宗教の自由」――法廷は西洋的「宗教」概念を再強化するのか	５．発行年 2019年
３．雑誌名 アメリカ・カナダ研究	６．最初と最後の頁 39-62
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

〔学会発表〕　計17件（うち招待講演　4件／うち国際学会　5件）

１．発表者名 FUJIWARA, Satoko
２．発表標題 How Religious Diversity Is Represented and Taught in Asian School Textbooks
３．学会等名 8th Conference of South and Southeast Asian Association for the Study of Culture and Religion（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 江川純一
２．発表標題 イタリア型政教関係の特殊性―「ライチタ」と「ライシテ」―
３．学会等名 日本宗教学会
４．発表年 2019年

１．発表者名 矢野秀武
２．発表標題 現代タイにおける宗教研究　―　中核的研究者リストの作成と分析
３．学会等名 東南アジア学会関西地区例会
４．発表年 2020年

１．発表者名 柴田大輔
２．発表標題 デヴィッド・ソフェル・コレクション所蔵テル・タバン資料と前12・11世紀におけるアラム人・カルデア人問題
３．学会等名 第62回シュメール研究会
４．発表年 2019年

１．発表者名 柴田大輔
２．発表標題 テル・タバン出土アッシュル・ケタ・レシル２世の記念碑文とその歴史的背景
３．学会等名 研究会「アッシリアの属国と属州：テル・タバン遺跡とヤシン・テペ遺跡の調査成果から」
４．発表年 2020年

１．発表者名 西村明
２．発表標題 日本の公的慰霊における脱色された宗教性とその担い手
３．学会等名 日本宗教学会第77回学術大会
４．発表年 2018年

１．発表者名 西村明
２．発表標題 ホームのような、アウェイのような
３．学会等名 東京大学文学部主催シンポジウム「人文学の最前線」（招待講演）
４．発表年 2018年

１．発表者名 西村明
２．発表標題 余は如何にして0ターン大学教員となりし乎
３．学会等名 2018年度東京大学朝日講座「居場所」の未来（招待講演）
４．発表年 2018年

１．発表者名 Satoko Fujiwara
２．発表標題 Between the North and the South: The History of the Study of African Religions in Japan
３．学会等名 African Association for the Study of Religions（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 藤原聖子
２．発表標題 宗教学会の状況―他分野学会と比較して―
３．学会等名 日本宗教学会第77回学術大会
４．発表年 2018年

１．発表者名 Satoko Fujiwara
２．発表標題 “Religious Secularities” in Recent Japanese Youth Culture
３．学会等名 Workshop on Secularities in Japan（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 矢野秀武
２．発表標題 タイにおける宗教研究の歴史と現状
３．学会等名 駒沢宗教学研究会第184回例会
４．発表年 2018年

１．発表者名 矢野秀武
２．発表標題 世俗主義の弱いタイにおける宗教研究の現状
３．学会等名 日本宗教学会第77回学術大会
４．発表年 2018年

１．発表者名 伊達聖伸
２．発表標題 ケベックのインターカルチュラリズム
３．学会等名 日本カナダ学会第43回年次研究大会（招待講演）
４．発表年 2018年

１．発表者名 DATE Kiyonobu
２．発表標題 Quelques aspects des mythes nationaux du Japon contemporain
３．学会等名 日本ケベック学会
４．発表年 2018年

１．発表者名 DATE Kiyonobu
２．発表標題 Les mythes nationaux dans le Japon de l ’ apres-guerre
３．学会等名 Demi-journee d ’ etude : Mythes nationaux et nationalisme au Japon（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 DATE Kiyonobu
２．発表標題 La notion de "religion" dans la cour de justice : une etude comparee entre le Quebec et le Japon
３．学会等名 Lectures critiques sur la religion, le droit et la theorie en sciences sociales（国際学会）
４．発表年 2019年

〔図書〕　計19件

１．著者名 菅豊・北條勝貴編著（西村明分担執筆）	４．発行年 2019年
２．出版社 勉誠出版	５．総ページ数 479
３．書名 パブリック・ヒストリー入門―開かれた歴史学への挑戦―	

１．著者名 堀江宗正編（西村明分担執筆）	４．発行年 2019年
２．出版社 東京大学出版会	５．総ページ数 404
３．書名 宗教と社会の戦後史	

1．著者名 J. Borup et. al. ed. (co-author: FUJIWARA, Satoko)	4．発行年 2019年
2．出版社 Brill	5．総ページ数 336
3．書名 Religious Diversity in Asia	

1．著者名 Satoko Fujiwara, David Thurfjell, Steven Engler eds	4．発行年 2020年
2．出版社 Equinox	5．総ページ数 300
3．書名 Global Phenomenologies of Religion	

1．著者名 櫻井 義秀編著（矢野秀武分担執筆）	4．発行年 2020年
2．出版社 北海道大学出版会	5．総ページ数 350
3．書名 アジアの公共宗教	

1．著者名 勝又悦子・柴田大輔・志田雅宏・高井啓介（編）	4．発行年 2020年
2．出版社 リトン	5．総ページ数 423
3．書名 一神教世界の中のユダヤ教―市川裕先生献呈論文集	

１．著者名 伊藤　邦武、山内　志朗、中島　隆博、納富　信留（編）（柴田大輔分担執筆）	４．発行年 2020年
２．出版社 筑摩書房	５．総ページ数 320
３．書名 世界哲学史１	

１．著者名 西村明	４．発行年 2018年
２．出版社 京都大学学術出版会	５．総ページ数 652
３．書名 『トラウマ研究１　トラウマを生きる』田中雅一・松嶋健編，「トラウマから架橋へ－玉砕戦生還者の記憶がひらく新たな回路」を分担執筆）	

１．著者名 西村明	４．発行年 2018年
２．出版社 岩波書店	５．総ページ数 224
３．書名 『いま宗教に向きあう２　隠される宗教、顕れる宗教』責任編集および、序論、争点、第３章「錯綜する慰霊空間――ポスト戦後的状況のなかで」分担執筆	

１．著者名 堀江 宗正	４．発行年 2018年
２．出版社 岩波書店	５．総ページ数 224
３．書名 『いま宗教に向きあう１　現代日本の宗教事情』責任編集および、序論、争点、「第3章　民衆宗教としての新宗教」（福嶋信吉との共著）、「第5章　死後はどう語られているか――スピリチュアリズム的死生観の台頭」	

１．著者名 黒﨑浩行	４．発行年 2018年
２．出版社 岩波書店	５．総ページ数 224
３．書名 「地域社会と神社・祭り―人口減少と地域再生の中で」（堀江宗正責任編集『いま宗教に向きあう　１　現代日本の宗教事情　国内編I』所収）	

１．著者名 池澤優	４．発行年 2018年
２．出版社 岩波書店	５．総ページ数 272
３．書名 『政治化する宗教、宗教化する政治』（いま宗教に向きあう４）、責任編集および、担当執筆「序論　公共圏と宗教のせめぎあい」「争点１　ナショナリズムも宗教の代替物なのか？」「争点２　フランスの共和主義も宗教のようなものなのか？」「争点３　宗教は「役に立つ」のか？」「見えない宗教の力―現代の生命倫理・環境倫理言説の宗教性」	

１．著者名 矢野秀武	４．発行年 2018年
２．出版社 岩波書店	５．総ページ数 272
３．書名 「上座仏教とナショナリズム　国家主導の宗教的ナショナリズム」、池澤優責任編集　『いま宗教に向きあう　４　政治化する宗教、宗教化する政治　世界編２』	

１．著者名 伊達聖伸	４．発行年 2018年
２．出版社 岩波書店	５．総ページ数 272
３．書名 池澤優編『政治化する宗教、宗教化する政治』（いま宗教に向きあう4世界編II）「欧州人権裁判所におけるヴェールと十字架――イスラームに向きあう世俗的ヨーロッパのキリスト教的な系譜」を分担執筆	

１．著者名 江川純一	４．発行年 2018年
２．出版社 波書店	５．総ページ数 272
３．書名 池澤優編『いま宗教に向き合う４　政治化する宗教，宗教化する政治』、第2章「イタリアの新たな「世俗性」」を分担執筆	

１．著者名 池澤優	４．発行年 2018年
２．出版社 慶應義塾大学出版会	５．総ページ数 340+XXXVII
３．書名 澤井義次・鎌田繁編『井筒俊彦の東洋哲学』（担当「井筒「東洋哲学」の現代的意義－兼ねて郭店『老子』と『太一生水』を論ず」）	

１．著者名 藤原 聖子	４．発行年 2018年
２．出版社 岩波書店	５．総ページ数 288
３．書名 『いま宗教に向きあう３　世俗化後のグローバル宗教事情』序論、争点1～4、13章	

１．著者名 矢野秀武	４．発行年 2019年
２．出版社 公益財団法人国際宗教研究所・宗教情報リサーチセンター	５．総ページ数 234
３．書名 「タイの統計資料から見る宗教の諸相と外来宗教　日本宗教の展開の背景にあるもの」宗教情報リサーチセンター『海外における日本宗教の展開　21世紀の状況を中心に』	

１．著者名 伊達聖伸	４．発行年 2018年
２．出版社 ミネルヴァ書房	５．総ページ数 212
３．書名 剣持久木編『よくわかるフランス近現代史』「ヴォルテールと寛容」「ライシテの確立――コンコルダートから政教分離法へ」「ライシテの現在――反スカーフ法とブルキニ論争」を分担執筆	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	池澤　優 (Ikezawa Masaru) (90250993)	東京大学・大学院人文社会系研究科（文学部）・教授 (12601)	
研究分担者	藤原　聖子 (Fujiwara Satoko) (10338593)	東京大学・大学院人文社会系研究科（文学部）・教授 (12601)	
研究分担者	奥山　倫明 (Okuyama Michiaki) (30308928)	東洋英和女学院大学・人間科学部・教授 (32718)	
研究分担者	黒崎　浩行 (Kurosaki Hiroyuki) (70296789)	國學院大學・神道文化学部・教授 (32614)	
研究分担者	矢野　秀武 (Yano Hidetake) (20422347)	駒澤大学・総合教育研究部・教授 (32617)	

６．研究組織（つづき）

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	堀江　宗正 (Horie Norichika) (90338575)	東京大学・大学院人文社会系研究科（文学部）・教授 (12601)	
研究分担者	伊達　聖伸 (Date Kiyonobu) (90550004)	東京大学・大学院総合文化研究科・准教授 (12601)	
研究分担者	江川　純一 (Egawa Junichi) (40636693)	明治学院大学・国際学部・研究員 (32683)	
研究分担者	渡辺　優 (Watanabe Yu) (40736857)	東京大学・大学院人文社会系研究科（文学部）・准教授 (12601)	

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
連携研究者	村上　興匡 (Murakami Kokyo) (40292742)	大正大学・文学部・教授 (32635)	
連携研究者	宮嶋　俊一 (Miyajima Shunichi) (80645896)	北海道大学・文学研究科・教授 (10101)	
連携研究者	高橋　原 (Takahashi Hara) (30451777)	東北大学・文学研究科・教授 (11301)	

６．研究組織（つづき）

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
連携研究者	杉木　恒彦 (Sugiki Tsunehiko) (40422349)	広島大学・人間社会科学研究科・教授 (15401)	
連携研究者	川瀬　貴也 (Kawase Takaya) (30347439)	京都府立大学・文学部・教授 (24302)	
連携研究者	柴田　大輔 (Shibata Daisuke) (40553293)	筑波大学・人文社会系・教授 (12102)	

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関